

臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名 サルコイドーシスにおける PAB 抗体染色の有用性及び臨床的背景の検討』

【研究の背景および目的】

サルコイドーシスは原因不明の全身性肉芽腫性疾患であることが知られています。近年、*Propionibacterium acnes* 菌の内因性感染がその原因として考えられるようになり、東京医科歯科大学の江石らのグループは *Propionibacterium acnes* 菌に対する特異的な抗体 (PAB 抗体) を作成し、免疫染色にて肉芽腫内に *Propionibacterium acnes* 菌の感染を証明しました。

そこで、東邦大学医学部呼吸器内科学及び病理診断科では、当院における患者さんにおいても同様の結果が得られるかどうかを確認し、その背景を検討することを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、サルコイドーシスの診断につながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

現在までに東邦大学医療センター大森病院において、組織生検中に肉芽腫を証明されたサルコイドーシスの患者さん及び他の肉芽腫性疾患の患者さんを対象とします。残余のパラフィンブロックから切片を切り出し、PAB 抗体を用いて免疫染色を施行します。染色の結果と診療録(カルテ)から抽出した臨床背景を解析し、影響を与える因子を調査します。

共同研究者の 2 名が企業から研究寄付金を取得しております。本研究との直接の関係はありませんが、利益相反が生じる可能性があります。医療情報の調査や解析は当該研究者以外の複数の共同研究者が担当することで利益相反の回避に努め、研究の客観性を保ちます。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医学部呼吸器内科

職位・氏名 教授・本間栄

電話 03-3762-4151 内線 6355